令和４年７月２０日

永福学園通信

R4 第４号

東京都立永福学園
校長　緒方　直彦

SOS の出し方に関する教育

一時期コロナウィルスの感染も減少傾向にありましたが、ここにきて急激な増加傾向にあります。学校としては、感染予防に努め、９月以降も教育活動を工夫してまいります。しかし、３年にわたるコロナ感染予防により学校行事の中止や部活動の制限、マスクの着用義務等の行動制限により、子供たちも含め教職員にもストレスがかなり蓄積してきています。そこで本校では、本年度の学校経営計画において、「SOS の出し方に関する教育」の充実を掲げています。今回は、そのことに関することを紹介します。

皆さんは、コロナ禍の中で最も売れた本として紹介されている「ぼく　モグラ　キツネ　馬」という書籍をご存じでしょうか。少年（ぼく）が動物と旅をし、対話から人生に必要なことを見つけていくという話です。どのページも、やさしいイラストとともに、少年（ぼく）と動物たちとの対話に、心に響く言葉がちりばめられています。

例えば、「今までに、あなたが言った中で、一番勇敢な言葉は？」と、少年が尋ねると、馬は「助けて」と答えました。また、「一番強かったのは、いつ？」と少年が尋ねると、馬は「弱みを見せることができた時」と言い、更に「助けを求めることは、あきらめることとは違う。あきらめないために、そうするのだ。」と言っています。

＊出典　飛鳥新社『ぼく　モグラ　キツネ　馬』チャーリー・マッケジー 著・河村元気　訳

助けを求めることの難しさは、大人なら誰もが理解しているのではないでしょうか。

それは、「助けて＝あきらめる＝弱いことを認める」ということだと思いこんでいるからです。しかし、「助けを求めることは、あきらめることとはちがう。あきらめないために、そうするのだ。」という考え方は、今の時代を生きる全ての人に必要なメッセージだと感じました。助けを求めることは、恥ずかしくない、弱くもない。むしろ、勇気をもって打ち明けられる強さをもっているということだと、改めてこの対話が教えてくれました。また、少年がモグラに「心が痛むときはどうしたらいいの？」と尋ねると、モグラは、「君の存在は代わるものがなく、とても愛されていて、この世界には君しかできないことがある。」と答えます。この味わい深い言葉は、自己肯定感と自己有用感につながるものと心に響きました。

コロナ禍の長期化は、子供たちの心身に様々な影響を与えています。家庭はもとより、学校と言う場所は、子供たちがいつでも「助けて」と言える場、安心して弱みを見せられる場となるよう、全教職員で見守りたいと思います。

そして、一人一人が大切な存在として実感でき、「自分にしかできないこと」を実現する確かな力を身に付けることができる教育活動を展開していきたいと考えます。

東京都教育委員会のホームページには、「SOS の出し方に関する教育」を推進させるための指導資料や動画「自分を大切にしよう」が掲載されています。

ぜひ、御家庭でも子供と一緒に視聴してみてください。

いよいよ夏季休業に入ります。子供たちにとって充実した夏季休業になることを願っています。

校長　緒方　直彦

One school!!　One team!!

いじめ防止の取組について

いじめは、子供の生命や心身の健全な成長や人格の形成に重大な影響を及ぼすもので、絶対に許されない行為です。永福学園では「いじめ防止対策推進法」に基づき、「都立永福学園いじめ防止基本方針」（本校ホームページ参照）を改訂し、以下の６点を念頭に、いじめ防止対策を実施します。

①軽微ないじめも見逃さない。　②学校組織全体で一丸となって取り組む。
③相談しやすい環境の中で、いじめから子供を守り通す。
④子供たち自身が、いじめについて考え行動できるようにする。
⑤保護者の理解と協力を得て、いじめの解決を図る。
⑥社会全体の力を結集し、いじめと対峙する。

○学校いじめ対策委員会の強化（定例２回の他、随時開催）

今年度から本校教員以外に、スクールカウンセラーも委員として組織し、未然防止、早期発見、情報共有を迅速に行い、各事案への早期対応をできるようにしています。

○仲間との関わりアンケートの実施（年３回実施）

７月に第１回目のアンケートを実施しました。実施にあたり、「いじめとは何か」そして、「相談することの大切さ」についての学習も行いました。就業技術科と肢体不自由教育部門の準ずる教育課程は同じ設問で行い、知的障害を併せ有する児童・生徒の教育課程では、設問を簡易に表現したアンケートを行います。また、自立活動を主とする教育課程では、日々において、教員の観察や見守りなどから見取っていきます。
各回で分析を行い、必要に応じて、いじめ対策委員会を開催する等して、早急に対応します。また、保護者の皆様や教職員へのフィードバックも速やかに行っていきます。

○いじめに関する教職員の研修（年３回実施）

いじめの定義や重大事案を学び、定期的にいじめを捉え直す機会を確保することで、いじめのサインを見逃さない確かな眼力と高い意識を養います。6 月には取組概要の説明と、基本的な考え方である**「いじめに結びつく全ての暴力を許さない、認めない」**を再確認しました。８月には各部門において、人権に関する研修を行います。

○感謝週間の実施（毎月、第２週目（5 日間）を指定して実施）

感謝の気持ちを言葉にして交流を行う「感謝週間」を毎月実施します。「ありがとう」という言葉を言うときは、物事を肯定的に捉えることができている時です。日々、生活をする中で、感謝の気持ちを意識して、お互いが前向きにそして、肯定的に過ごせるよう、毎月、取り組みます。心の健康と体の健康は相関しているといわれています。

夏休み中に、御家庭でも同じように、感謝の気持ちを御家族で伝え合う機会としていただけますようお願いいたします。９月は１日から９日まで実施予定です。

肢体不自由教育部門 主幹教諭　金田　実・就業技術科 主幹教諭　秋谷　昌義

東京都立永福学園
○肢体不自由教育部門
副 校 長　秋本　友美　　小松　弘喜
主幹教諭　池田　佳信
○就業技術科
副 校 長　山﨑　裕之
主幹教諭　土田　律子

〒168-0064
東京都杉並区永福１丁目７番２８号
電　　話　０３－３３２３－１３８０
ファクシミリ　０３－３３２３－１３８１
ホームページ
http://www.eifuku-sh.metro.tokyo.jp/